

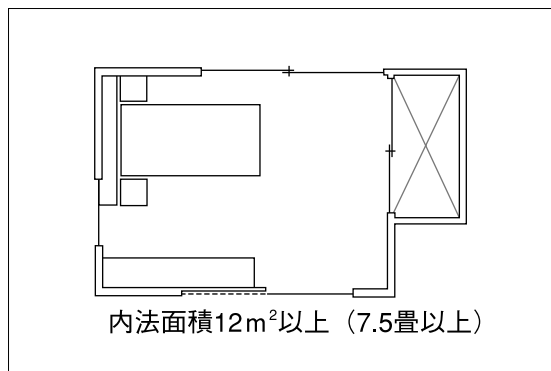
2 寝室の広さ

配慮したいこと



ベッドを使用すると、寝起きが容易になるほか、毎日の布団の収納作業もなく、特にお年寄りの負担を軽くできることから、寝室の広さは、ベッドの配置を考慮し、また、将来介助が必要になった場合でも対応できるような広さが望まれます。

参考図など



●寝室の広さの目安

3 寝室の遮音性

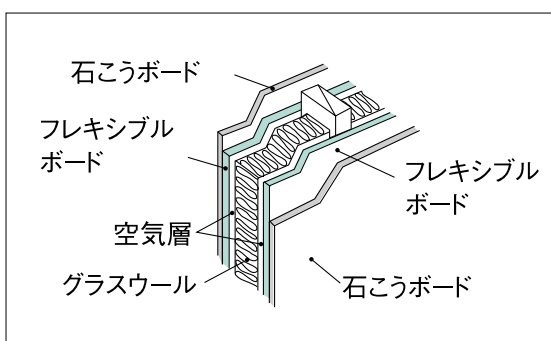
配慮したいこと



家族全員のプライバシーを尊重して、寝室と他の居室との壁は遮音性を高めることも大切です。

また、立地条件により外部の騒音が懸念される場合は、防音サッシや雨戸による遮音にも配慮しましょう。

参考図など



●遮音性を考慮した内壁の例

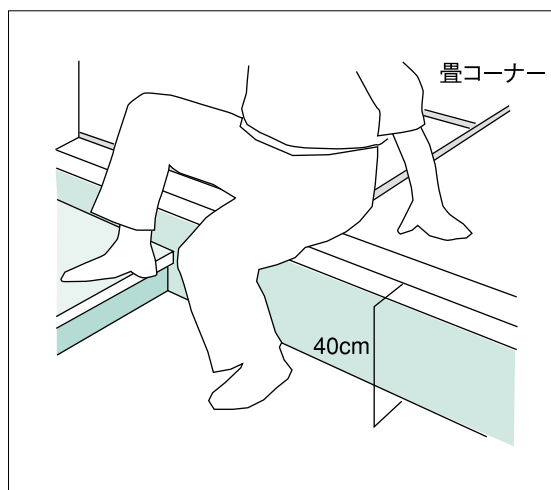
4 出入口や室内の段差

配慮したいこと



出入口や室内は、段差なしとします。ただし、和室や部分的に畳のコーナーを設ける場合は、段差なしに腰かけることができる高さにしましょう。中途半端な段差は、つまずきや転倒の原因となるので注意しましょう。

参考図など



●畳コーナーの腰掛けのイメージ

1 -10 収納・家具など

収納は、間取りを考える時にはともすれば忘れがちですが、量的に十分な空間を確保するだけでなく、その位置についても十分な配慮が必要です。頻繁に使うものは高すぎたり低すぎたりせず、出し入れのしやすいところに配置することが大切です。

また、家具などについても使いやすいものを選び、室内の空気汚染を引き起こす材料を使用したものは避けましょう。

1 収納のつくりやスペース、設置位置

配慮したいこと

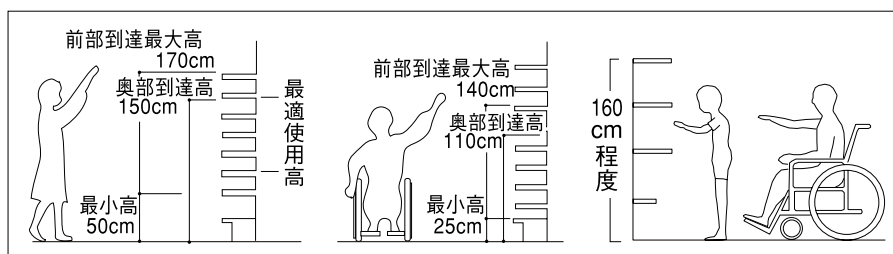


収納の建具は開閉が容易に行えるように開閉方法、把手の形状などに配慮するほか、建具無しの開放棚、パイプやフック類の活用も考慮するとよいでしょう。

また、奥行きが深すぎると、収納物が前後になり、出し入れや収納物の確認に不便なこともあるため、

収納物の量と大きさに合った寸法とすることが大切です。

収納の位置については、よく使うものは高すぎたり低すぎたりせず、出し入れしやすいところに配置することが大切になります。



●収納高さの目安

参考図など



●スライド機能付きの収納スペース

2 身体に合わせた家具

配慮したいこと



家具には当初から造りつけにするものと、後から置くものとあります。

子どもから大人まで使いやすい家具を選びましょう。また、場所によっては、立ち上がりや移動の手がかりにもなりますので、しっかりした家具を選びましょう。

参考図など



●高さが調節できるテーブル

3 ブラインドやカーテンなど

配慮したいこと



■ブラインド

開閉方法は、縦型と横型があります。縦型は、掃き出し窓など人の出入りが多いところでは開閉の調節ができて便利ですが、採光の調節は横型の方が適しています。

手動と電動のタイプがありますが、子どもや高齢者、障害者にできるだけ開閉に負担がかからないことを考慮して選びましょう。

■カーテン

防災処理や静電気防止処理されたもの、明るさを確保したまま日射を遮り、内部のプライバシーを保護するためのレースカーテン、また、光を遮るための遮光カーテンなどがあります。

手動が主ですが、電動にすることもできます。

■ロールスクリーン

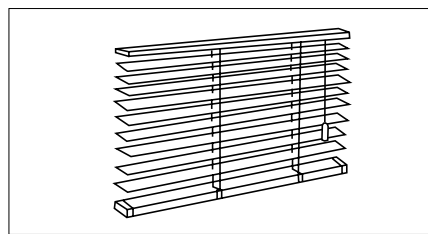
スクリーンをパイプに巻いて開閉します。横型ブラインドと同様に上下に開閉するため、出入りの多い窓にはあまり向いていませんが、高さに配慮すれば操作は簡単で便利です。

■障子

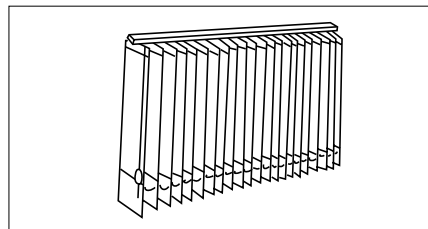
昼間の直射日光を和らげ、夜間の室内灯を反射し照明効果を高めます。

また、ガラス窓との併用で保温効果が得られます。

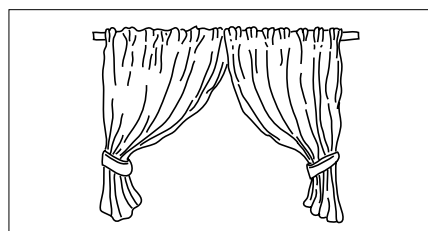
参考図など



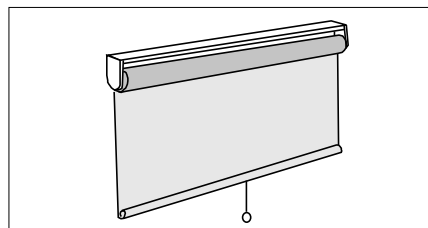
●横型ブラインド



●縦型ブラインド



●カーテン



●ロールスクリーン

4 雨戸、シャッター雨戸

配慮したいこと



雨戸、シャッター雨戸は住まいを風雨から守るだけでなく、冷暖房効果を高めたり、夜間の防犯にも効果的です。

電動のものであれば、室内からの操作で楽に開閉でき、また、採光や換気も調節できます。

参考図など



●電動シャッターの例

2-1 段差

段差の解消は、住宅内部の対策として特に重要です。住宅内の段差による転倒事故は、だれにでも起こりうることです。

このような事故は、個人の注意を促すだけで防ぐことが難しいことから、部屋と部屋の間や部屋内部での段差がない構造にしましょう。

1 住宅内の床段差

配慮したいこと



■洋室～和室

和室と洋室の間は、床面の素材の違いや下地の構造の違いから段差が多くみられます。

下地を調整し、仕上がりの段差をなくし、つまずき起きないようにしましょう。

やむをえず段差を設ける場合は、はっきりとした段差にしましょう。

■洋室～廊下

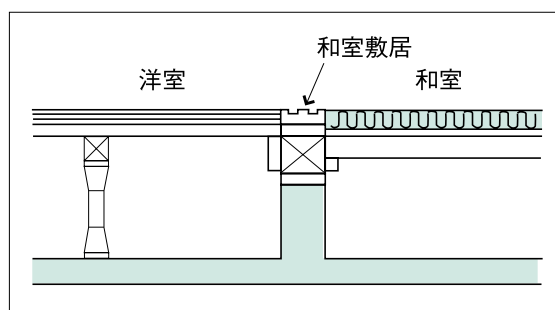
洋室と廊下の間は、すきま風などを防ぐため、扉(ドア)の沓^{くさ}ずりを設けることが多くみられます。

段差をなくし、つまずきを防止するだけでなく、車いすの場合でも出入りしやすくするため、沓^{くさ}ずりをなくすか、沓^{くさ}ずりの要らない引き戸による構造としましょう。

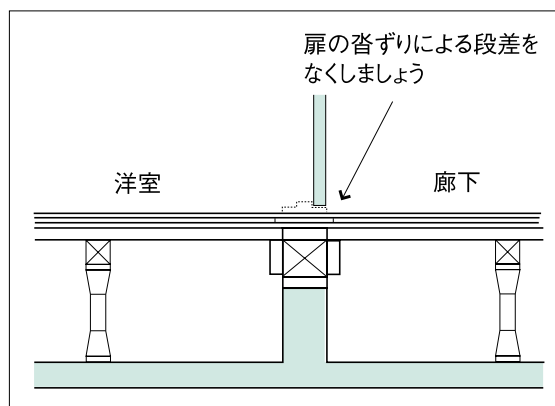
■引き戸の敷居

引き戸とする場合は、段差をなくすため、V溝のレールとしたり、吊り戸とするなどの工夫をしましょう。

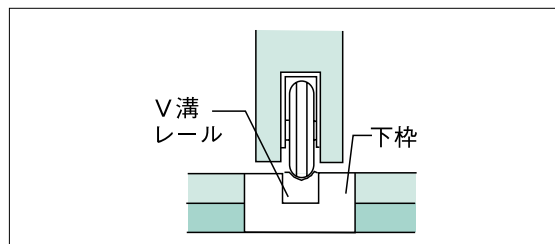
参考図など



●洋室～和室のつくり



●洋室～廊下のつくり



●引き戸の敷居のつくり

2-2 手すり・把手など

住宅の中では、体重の上下移動や片足立ちにならざるを得ない場面がありますが、その場合、姿勢の安定を確保することが大切です。靴を脱いだり履いたり、便所や浴室で立ったりしゃがんだり、また、階段などを上り下りするときに、手すりなどの手がかりがあることが望めます。

また、ドアを開閉したり、鍵をかけたりする把手については、指掛かりしやすく力を入れずに無理なく開け閉めできる形状のものを選びましょう。

1 手すりの種類

配慮したいこと



■移動用の横手すり

廊下などで体を移動させる際に使用します。しっかりと握るのではなく、主に伝い歩きになります。

出入口の位置に配慮しながらできる限り連続的に設けることが大切です。

また、支持材が移動に邪魔にならないようにしましょう。

■姿勢保持（動作補助）用手すり

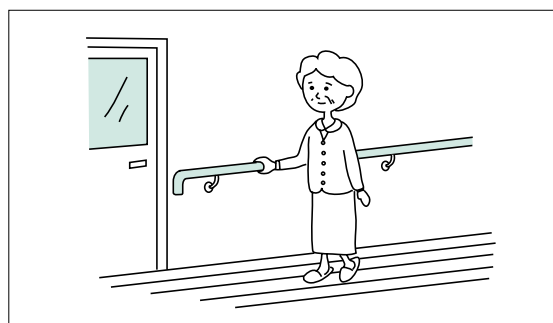
トイレでの立ち座りなどで姿勢を保持するための手すりです。しっかりと握って使用されることがほとんどです。

手すりをつかむ力の働く方向を考え、しっかりと身体を支えられるよう、取り付けることが大切です。

■落下防止用手すり

バルコニーなどで落下を防止するための手すりです。動作のために握るといったものではありませんが、幼児や子どもが間違えて上り、転落事故が起こらないような構造とし、また、体重をかけてよりかかっても壊れないよう、しっかりと固定することが大切です。

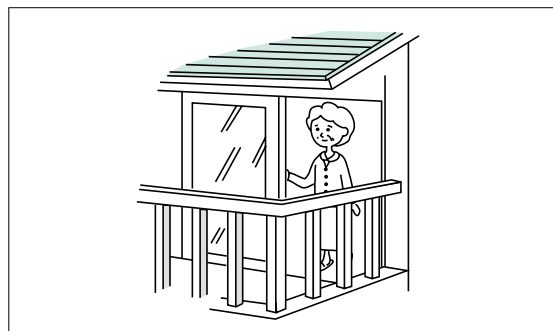
参考図など



●移動用の横手すり



●姿勢保持（動作補助）用手すり



●落下防止用手すり

2 手すりの形や取り付け方法

配慮したいこと



■形状・色

浴室や便所などしっかり握ることが多い手すりの場合はやや細めの円形のものを選びます。

廊下など手を滑らせて使用する場合は、やや太めのものや平坦なものなどで、手触りの良いものを選びましょう。

設置の際は、手すりを握りやすいように、手すりと壁の空気を確保し、あわせて、支持材に指が引っかからないように気をつけましょう。

また、手すりの周囲（壁面など）の色と区別しやすい色を用いることが望まれます。

■端部のかたち

階段やスロープでは、端部に水平部分を設けることが望まれます。

また、端部は、衣服に引っかからないように、必ず壁側か下側に曲げましょう。

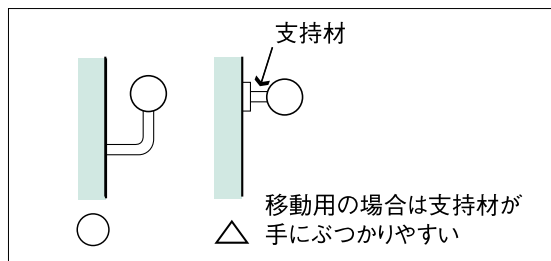
■取り付け高さ

取り付け高さの目安は、大腿骨の付け根のあたりですが、身体状況を考慮した上で、主な利用者に最も合う高さとすることが大切です。

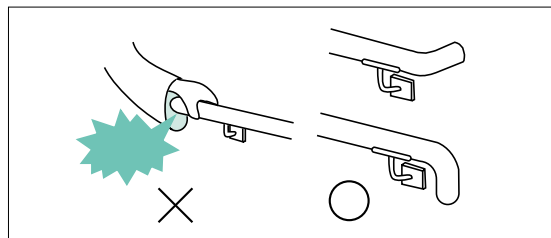
■将来手すりを取り付ける

将来手すりを取り付けるには、木造の場合は構造用合板などを補強下地材として壁下地に使用しておく必要があります。

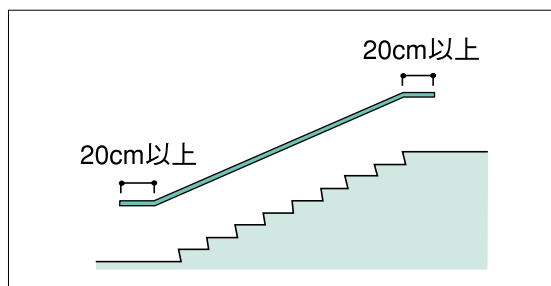
参考図など



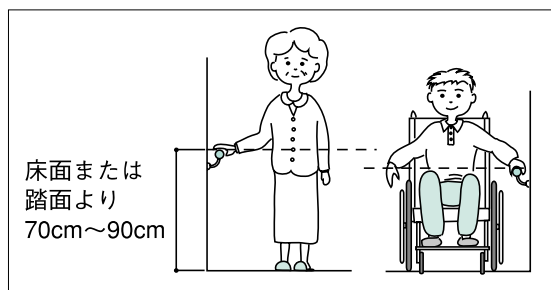
●支持材の設置例



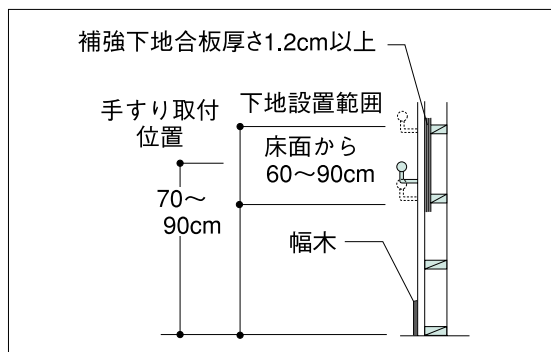
●端部の曲げ方



●階段手すりの端部の望ましい寸法



●設置高さの目安



●補強下地位置の目安

■家具や収納などを手がかりとする

しばらく手すりを設置しない場合でも、収納やカウンターを設けることで、その一部を手がかりとして、手すりの代用とすることもできます。

この場合は、体重をかけた場合でも収納やカウンターが転倒しない配慮が必要です。

3 扉の把手など

配慮したいこと



把手は指掛かりしやすく力を入れずに無理なく開け閉めできる形状の把手としましょう。

また、衣類に邪魔にならず、廊下幅も十分とれるよう、把手が通路面に出ないような工夫も考えてみましょう。

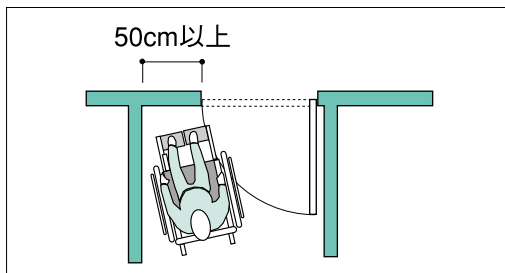


●大型で手がかりのよい把手の例

把手の高さは、子どもから大人までが使いやすい位置にすることが必要です。

また、開閉しやすさを高めるためには、扉などの脇の壁に縦方向の手すりを設置するとよいでしょう。

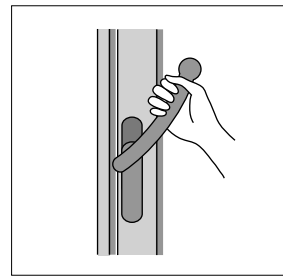
把手をつける時は、車いすが把手に寄りつけないように、周辺に十分なスペースを確保することが大切です。



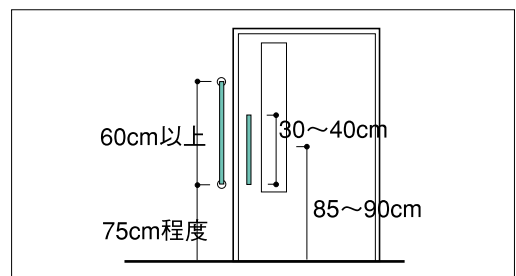
●寄りつきのスペース(開き戸)



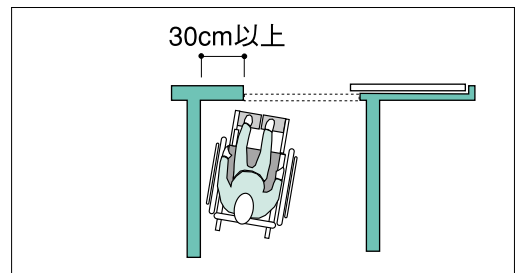
●通路面に出ない把手の収まりの例



●大型クレセントの例



●把手の高さの目安



●寄りつきのスペース(引き戸)

2-3 仕上げ

住宅の内外装の仕上げ材の選択によって、快適な暮らしが左右されます。住宅の建材の一部には、ホルムアルデヒドなどの化学物質が含まれる接着剤を使用した床材や壁材、クロス、合板などもあり、シックハウス症候群を引き起こす原因ともなりますので注意が必要です。

家族の好みにあった美しく快適な仕上げ材を選ぶとともに、室内空気の汚染を防ぎ、安心して生活できるように、自然素材や環境に配慮した素材からできた仕上げ材を選びましょう。

1 床仕上げの種類

配慮したいこと

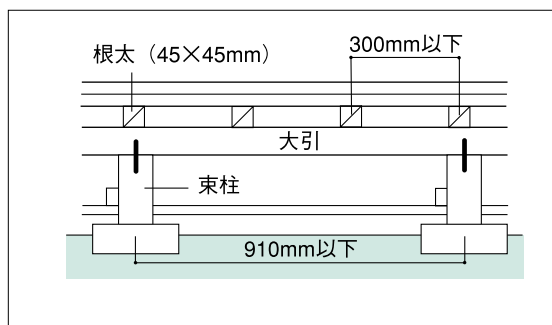


住戸内の床の仕上げは、滑り、転倒などに対する安全性に配慮したものとしましょう。

また、重い家具の配置や車いすの利用などを考えて部屋や廊下の床材は、強度が保てるしっかりとした床材を用いましょう。構造用合板を下地として使用することで、より強度のある床仕上げとなります。

※仮に電動車いすの場合は、単体でも80~100kg。

参考図など



●安全な下地に快適な仕上げ材を選びましょう

■屋内の床仕上げ材の特性

仕上げ材の主な特性は下表のとおりです。

仕上げ材	特性と使用上の留意点
畳	車いす使用がやや困難。吸放湿性がよい。
フローリング	表面仕上げ材は滑りにくいものを選択。ワックスは滑らない程度に。
コルクタイル	滑りにくく、歩行感がよい。汚れやすい。
プラスチック系タイル ビニル系タイル	耐水性、耐久性に優れたものが多い。 濡れても滑りにくいものを使用。
長尺カーペット	車いす使用が困難。防災、防汚、耐摩耗性にも留意。
タイルカーペット	滑りにくさ、歩行感、耐摩耗性に優れる。
(発泡層無)長尺塩ビシート	耐水性、耐久性に優れ、歩行感もよい。
(発泡層有)クッションフロア 複合ビニルシート	耐久性を考慮し、表面の透明ビニル層が薄いものは避ける。 濡れても滑りにくいものを選択。

●屋内の床材の例 (出典:長寿社会対応住宅設計マニュアル 国土交通省住宅局)

■廊下

特に耐久性に優れ、滑りにくいものを選びましょう。

■階段

階段の踏面は、粗面にするか、ノンスリップを設けましょう。

■洗面所・脱衣室、浴室

洗面所・脱衣室、浴室は耐久性に優れたものを選びましょう。特に浴室は水に濡れるため、滑りにくいものを選ぶ必要があります。

また、転倒した場合の衝撃を和らげるよう、仕上げの材質にも配慮が必要です。

■屋外の床仕上げ材の特性

床仕上げ材の主な特性は下表のとおりです。

仕上げ材	特性と使用上の留意点
タイル・レンガ インターロッキングブロック	濡れた場合、滑りやすくなるものがあるので注意。 杖の先端が引っかからないように、目地の幅、深さに注意。
モルタル	水こう配をつけ、表面は粗面にする。
モルタル洗い出し	モルタルに混入する骨材により、滑りにくさや汚れの落としやすさが異なるので注意。 洗い出された骨材で引っかからないように注意。
石材・人造石材	石類の表面は粗面仕上げに。鏡面仕上げは避ける。 凹凸が生じないように留意。

●屋外の床材の例(出典:長寿社会対応住宅設計マニュアル 国土交通省住宅局)

2 壁仕上げの種類

配慮したいこと

参考図など



■素材

最近では、住宅内の建材などに使われている化学物質などに起因するシックハウス症候群が問題になっています。

自然素材や環境に優しい素材を選びましょう。

■仕上げ

壁の出隅部分にぶつかってケガをしないように、できる限り面取りをしましょう。

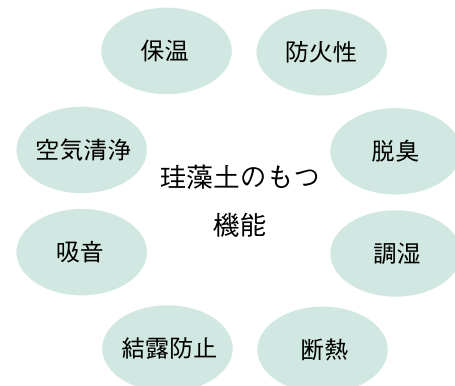
また、出隅部分のある壁は、できる限りざらついた仕上げを避け、必要に応じてクッション性を考慮した発泡性壁紙を選びましょう。

■幅木

特に、廊下や居間、寝室などの壁には、幅木を設けることが望まれます。幅木は車いすや掃除機などの衝突から壁面を保護します。

珪藻土

珪藻土とは、珪藻（プランクトン）の死骸が海や湖の底に長年にわたって堆積してできた泥土で、規則正しく配列した無数の微細な孔（0.1～0.2ミクロン）をもち、この超多孔質な構造のため表面積が大きく、優れた呼吸性と吸着性があります強度や接着性に富み、ひび割れにも強いことから、壁材として注目されています



●珪藻土（けいそうど）のもつ機能

3-1 給排水衛生・電気設備

住宅の設備は、生活を快適にするものとしてその役割は大きく、使用頻度が高いものほど使いやすさへの配慮が必要です。スイッチが小さい、余計な力が必要、操作しにくい、表示が見えにくいなどといった使いにくいものは、避けたいものです。安全性とともに、このような使い勝手も設備を選ぶときの重要なポイントになります。

1 水栓金具の種類

配慮したいこと



台所や洗面所、浴室などの水栓金具は、操作しやすい形状とします。

子どもからお年寄りまで、使う人の安全性を考えて、できる限り温度調節が自動制御、安全制御されたものを使用します。なお、浴槽の給湯には、湯の温度と量を自動制御できる給湯器や水栓金具を使用することが望まれます。

名称	形状	特徴
サーモスタット付 シャワー水栓 (スライドバー付)	スライドバー シャワー サーモスタット	温度調節機能が付いたサーモスタットを備えたタイプのシャワー。 スライドバーを使用することにより、シャワーの高さを変えることができる。
シングルレバー水栓		ハンドルの上下により、水の量を調整し、回転により湯温を調整する。
サーモスタット付 混合水栓	サーモスタット	温度調節機能が付いているため、熱湯を防ぐことができる。
定量止水栓	設定ハンドル	希望の水量目盛りに合わせれば、その水量で自動的に止水する。
プッシュ式水栓		押すだけの操作で、給水・止水ができる。
自動式水栓		センサーが感知して吐水・止水を自動的に行う。器具に触れなくても操作できる。
ハンドスプレー付 混合水栓		蛇口のホースが伸びるハンドスプレー式の水栓。

●水栓金具の例

2 照明の配置、メンテナンス

配慮したいこと

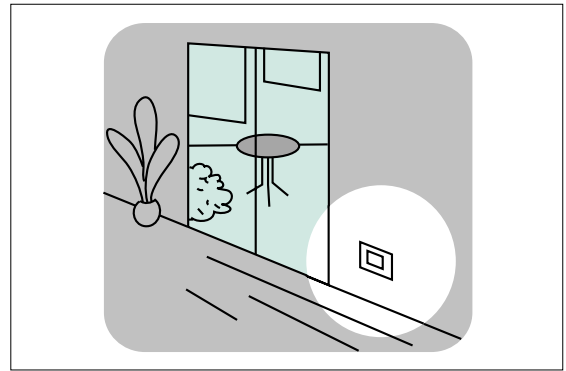


玄関や階段、細かい手作業をしたり文字を読む場所では、十分な明るさが必要です。

室内では、蛍光灯で全体を照らし個別に手元を照らしたり、玄関や階段、便所までの経路は足元を集中的に照らすように工夫しましょう。

また、照明を設ける場合には、掃除や電球の交換などのメンテナンスが、だれでも安全で簡単にできるような計画としましょう。

参考図など



●廊下の足元灯

3 スイッチ・コンセントなど

配慮したいこと

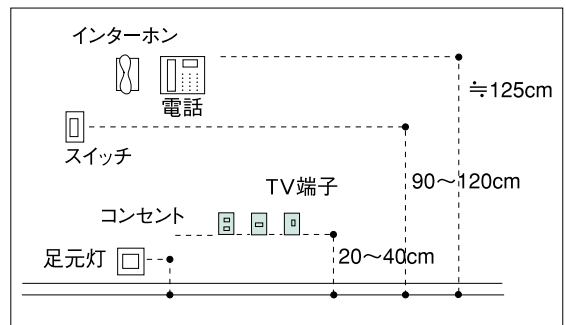


■スイッチ・コンセント

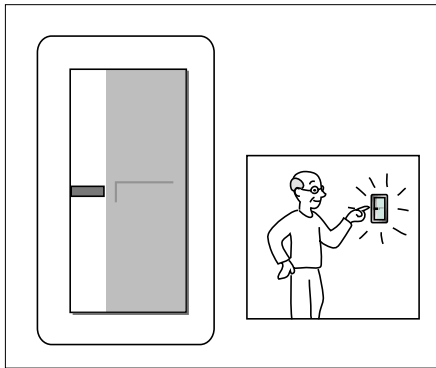
スイッチ・コンセントは、使いやすい高さで設置し、できる限り、明かり付きスイッチや大型スイッチを使用します。

また、日常頻繁に抜き差しするコンセントは、子どもやお年寄りでも抜き差しの容易な高さとするとともに、利用する電気器具の数に見合ったコンセントを準備しましょう。

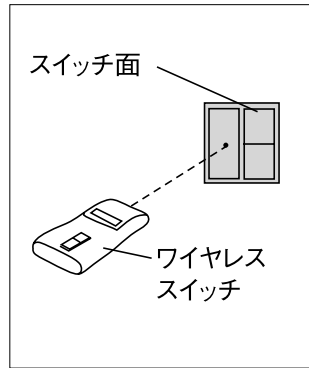
参考図など



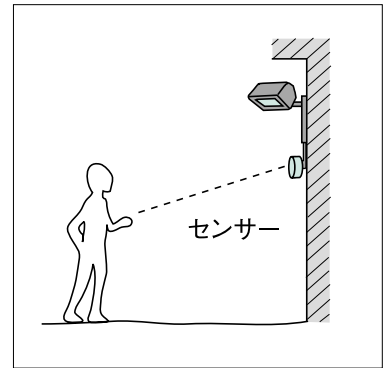
●スイッチなどの高さの目安



●明かり付きの大型スイッチ



●ワイヤレスリモコン式のスイッチ



●センサー付きのスイッチ

■分電盤

分電盤の位置は、停電時の暗闇でも復帰しやすいように、わかりやすく、手が届きやすい場所に設置しましょう。



●停電時に保安灯が点灯する分電盤の例

3-2 温熱換気環境

住宅内の急激な温度の変化に対応する体温調整は、若いときは容易に行えますが、歳をとるにしたがい難しくなります。屋根、壁、床、開口部の断熱化を図りつつ家全体で冷暖房による温熱環境を整えることが大切です。

また、病気がちな人や呼吸器などに障害のある人にとって、各居室などでの温度や換気には十分な配慮が必要です。

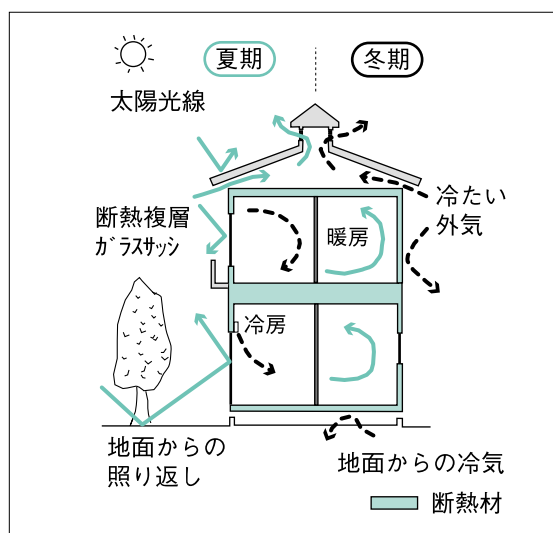
1 温熱環境

配慮したいこと



居間と廊下、寝室と便所など、家の中にある温度差は、人間の行動範囲を狭めたり、高齢者などにとって脳溢血などのきっかけになる恐れがあることから、断熱構造化を図りつつ家全体で冷暖房を考える必要があります。

参考図など



●夏期・冬期の温熱環境のイメージ

2 冷暖房設備

配慮したいこと



長い時間を過ごす居間・食堂や高齢者などの寝室、着衣量が少なくなる洗面所・脱衣室や便所には、暖房設備の設置に配慮します。

居間・食堂及び高齢者などの寝室には、必要に応じて冷房設備の設置に配慮します。また、加湿器による湿度管理も大切です。

操作するつまみ類は大きく扱いやすいもの、表示の字も大きく見やすいものとしましょう。また、できる限り、維持管理を容易にできるようにします。

参考図など



●暖房設備の設置例

3 換気設備

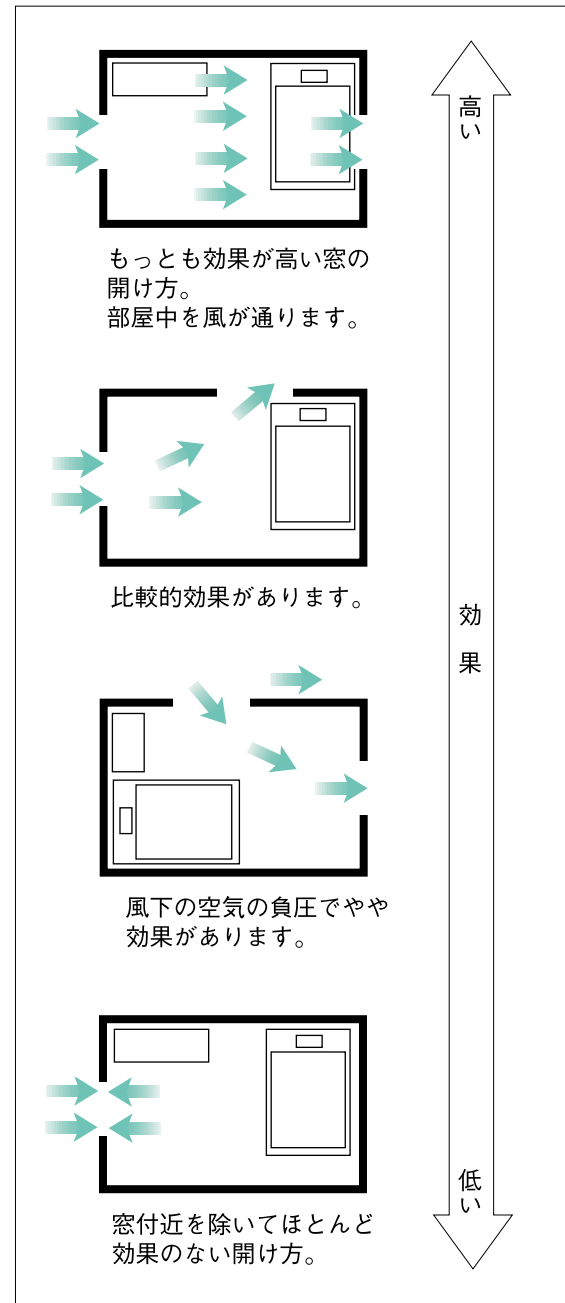
配慮したいこと



住まいの中で快適に暮らすため、新鮮な空気を取り入れることは大切なことです。室内の汚れた空気を効率よく入れ替えるために、開口部を大きく、風が通りやすい構造とします。

また、洗面所や便所、浴室など空気の流れが悪くなりがちなどところには、必要に応じて換気設備を設けましょう。

参考図など



●開口部の開け方別の風の通り道のイメージ
(寝室の平面図)

3-3 安全・通報設備

住まいの安全は、火災・ガス漏れ・ろう電などの防災的な面から、あるいは体の異変など家族に緊急の事態が発生した時にすばやく対応できる設備的な配慮まで様々です。

また、介助が必要な高齢者や病弱な人が症状の変化を身近な同居者に伝えることのできる通報設備への配慮も大切です。

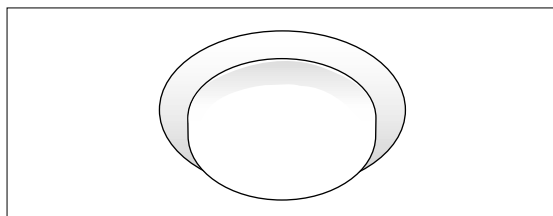
1 安全設備

配慮したいこと

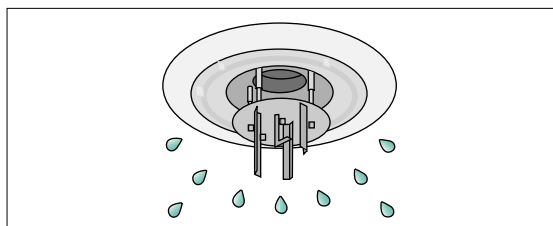


台所は火気を使用することから、住宅用スプリンクラー設備や消火器を設置することで、火災に対する初期消火に早く対応しやすくなります。

参考図など



●通常時



●消火時

2 通報設備

配慮したいこと

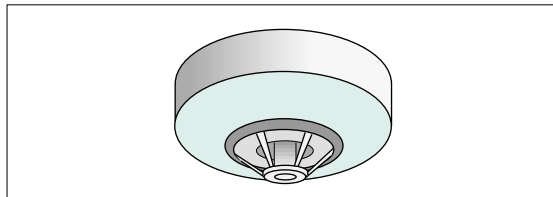


■台所

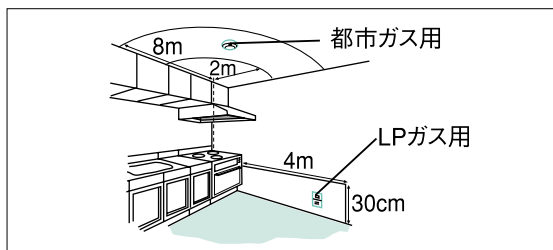
台所には、ガス漏れ検知器や火災警報機などを設置しましょう。

なお、火災警報装置は後から設置することが難しいため、当初に設置しない場合でも、あらかじめ配管・配線しておくことが大切です。

参考図など



●火災警報機(熱感知型)



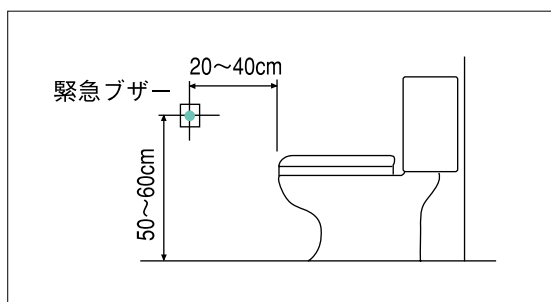
●ガス漏れ検知器の設置位置の目安

■ 便所

便所は、朝夕冷え込むこともあり、不意の事故などが起きやすい場所であるとともに、人目につきにくい場所です。

万一の場合に備え、緊急ブザーなどの装置を設けるか、当初に設置しない場合でも、あらかじめ配管・配線しておくことが大切です。

また、緊急ブザーは倒れたときでも手が届きやすい位置に設置します。



● 便所の場合の目安

■ 浴室

浴室は、転倒などによる不意の事故などが起きやすい場所であるとともに、人目につきにくい場所です。

万一の場合に備え、緊急ブザーなどの装置を設けるか、当初に設置しない場合でも、あらかじめ配管・配線しておくことが大切です。

呼び出しボタン



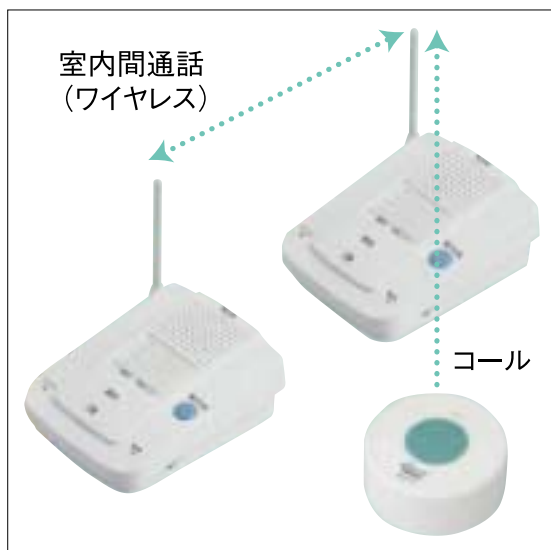
● 浴室の場合の例

■ 寝室

介護が必要な病人や高齢者にとっては、不意の疾病による身体の状態の変化や事故などが発生した場合に、すばやく家族などに伝えることが大切です。

万一の場合に備え、緊急ブザーなどの装置を設けるか、当初に設置しない場合でも、あらかじめ配管・配線しておくことが大切です。

また、火災警報機やインターホンを設けることも検討しましょう。



● 寝室の場合の例

3-4 移動支援設備

足腰が悪い場合や重い荷物を持つ場合には、上下階の垂直方向の移動を補助するホームエレベーターや段差解消機が役に立ちます。

将来の機器の設置に備え、あらかじめそのためのスペースを確保し、設備的な配慮を行うことも大切です。

1 ホームエレベーター

配慮したいこと



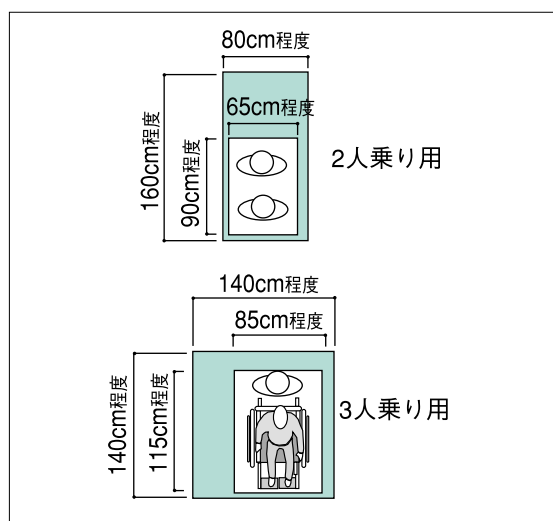
ホームエレベーターには2人乗りと3人乗り用とありますが、車いす使用の場合は3人乗り用とします。

また、出入口を直角方向に2カ所設置できる機種もあり、エレベーターの形状は住宅の間取りに応じて選択しましょう。

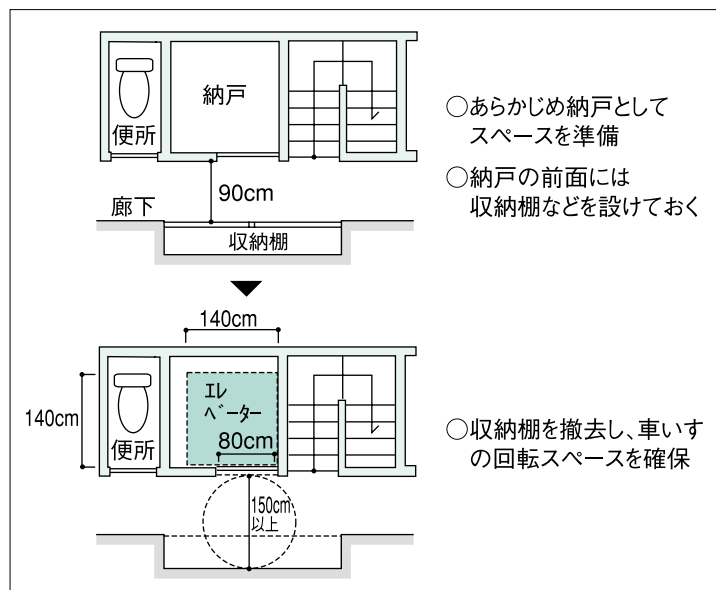
エレベーター出入口前の廊下やホールは、車いすでも回転できるスペースを確保することが大切です。

当初から設置できない場合は、エレベーターのスペースを設けておくか、増築できるスペースを確保しておくことが望まれます。

参考図など



●設置に必要な大きさの例（メーカーにより異なります）



●将来エレベーターを設置するよう配慮した例



●2カ所の出入口があるエレベーター

2 段差解消機

配慮したいこと



敷地や玄関などにやむを得ず段差が生じる場合で、スロープが設置できない場合は、車いすでの利用でも外出しやすいよう段差解消機の設置が望まれます。

段差解消機を外部で用いる場合は、深い庇を設けるなど、雨に濡れない配慮が必要です。

参考図など



●段差解消機の例

3 階段昇降機

配慮したいこと

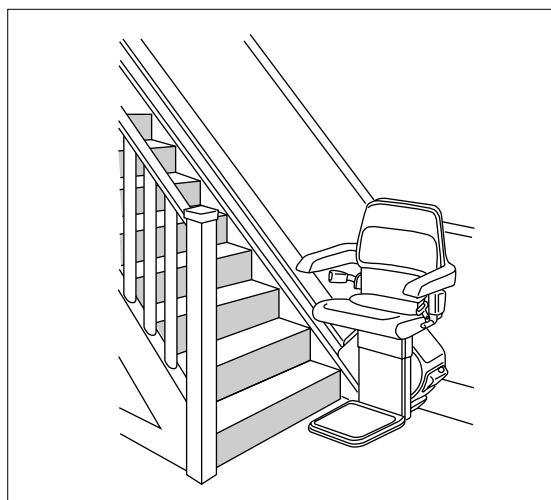


階段昇降機は、住宅用の機器としては、可搬型（介助型）階段昇降機と固定型（いす式）階段昇降機があります。

可搬型（介助型）階段昇降機は、固定設置とせず、車いすに装着して搬送する機器ですが、使用するには十分なスペースが必要であり、また、介助者に高い操作能力が求められます。

固定型（いす式）階段昇降機は操作が容易で安定性がありますが、階段部分にレールが常時設置されているため、家族の階段昇降の妨げになる場合もあり、設置の際には十分な配慮が必要です。

参考図など



●固定型（いす式）階段昇降機

4 天井走行式リフト

配慮したいこと



このリフトは吊り具を用いて身体を上げ下げする装置が天井面に取り付けられたレールに沿って移動します。

車いすなどを使わずにベッドから便所や浴室などへ身体を懸吊したまま移動でき、介助を軽減することができます。

設置の際は、天井面の補強工事やレールを交わる壁面を開閉できる工事などが必要です。

参考図など



●天井走行式リフト

4-1 バルコニー・テラス

バルコニーやテラスなどは、生活の豊かさを演出することができる貴重な屋外空間ですので、その活用について家族で話し合いながら使いやすさや安全性に配慮して設計することが望まれます。

1 物干し金物、物干し台

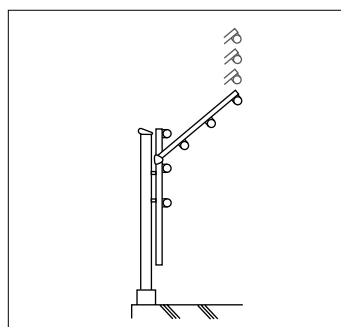
配慮したいこと



物干し金物はできる限り、子どもや高齢者でも手が届き、操作しやすい位置に取り付けましょう。

高さが調節できるものを取り付けたり、床置き之物干し台を設置できるスペースを確保するなど、バルコニーやテラスの広さや形状に応じて計画しましょう。

参考図など



●高さ調整可能な物干し金物

2 住宅内部の床との段差

配慮したいこと



住宅内部の床との段差は、雨じまいや排水の都合で難しいことが多いのですが、できる限り段差のない構造とすることをおすすめします。

排水用のピットを設けたり、すのこなどを利用することで段差のない状態が可能となります。

参考図など



●段差のないつくりの例

3 サンルーフテラス

配慮したいこと



屋根付きのテラスに可動式の間仕切りをつけると、簡易サンルーフになります。寒い時期でも雨天時でも利用できる半屋外空間となります。

参考図など



●サンルーフテラスの例

4-2 駐車場

小さな子どもがいる家庭ではベビーカーを、またお年寄りのいる家庭では車いすを利用する場合もあります。いろいろな荷物を積みこんだり、家族が乗りこむのに便利な位置で十分なゆとりあるスペースが必要です。

1 駐車場のつくり

配慮したいこと



駐車場の位置はできるだけ玄関付近に配置し、玄関出入口まで屋根を設置し、雨に濡れないよう配慮しましょう。

床面は雨水が浸水してきても滑りにくい素材のものとし、駐車場出入口への段差にも配慮しましょう。

参考図など



●大きな屋根付きの駐車場

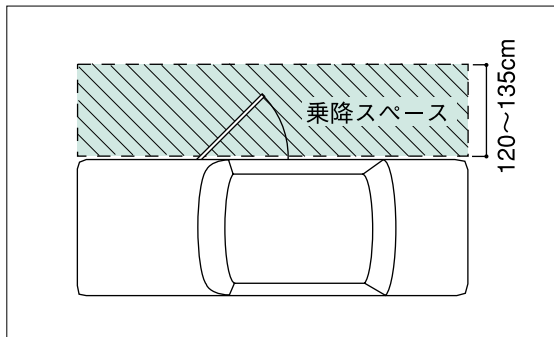
2 駐車スペース

配慮したいこと



駐車スペースの大きさは車の大きさにより異なりますが、ベビーカーや車いすでも車の乗り降りが楽な姿勢で行えるよう、できる限り車のドアが十分に開けられるスペースを設けます。

参考図など

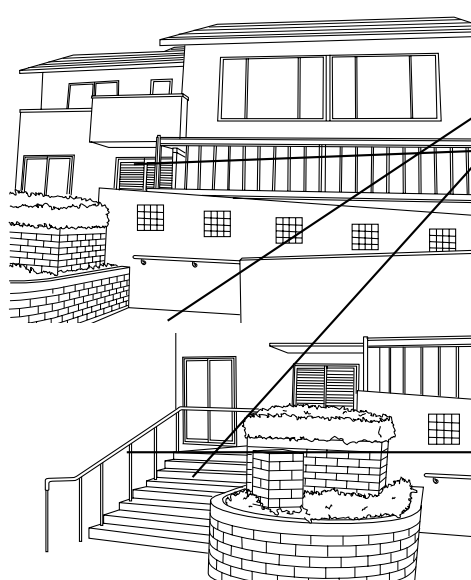


●乗降スペースの目安

4-3 アプローチ・外構

道路から玄関へのアプローチは、敷地の状況によっては高低差ができてしまいます。緩やかな階段やスロープなどにより、だれもが安全に行き来できる配慮が必要です。

また、庭に出て植物を育てたり、隣人とのコミュニケーションを図るためには、住戸内と庭とがスムーズに行き来できることや生垣などで緩やかに仕切るなどの配慮が必要です。



1. 階段・スロープ

高低差がある場合、緩やかなこう配の階段による対応と、スロープによる対応があります。

2. ポーチ

車いすなどが雨に濡れないよう、広めの庇を設けましょう。

3. インターホン

来客時に玄関先まで出る必要のないよう、インターホンを設けるとよいでしょう。

4. 街なみづくり

美しい街なみや地域との交流に配慮しましょう。

手すり

(P 51参照)

仕上げ

(P 54参照)

照明

スイッチ

コンセント

(P 56参照)

1 階段やスロープ

配慮したいこと

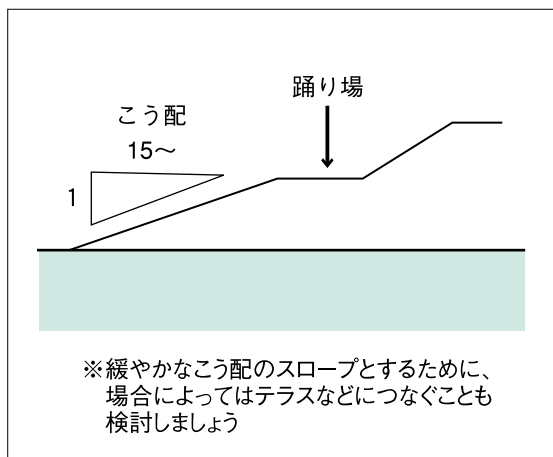


道路から玄関へのアプローチは、敷地の状況によっては高低差が生じやすい部分です。アプローチの作りは、身体機能が低下した際などの使いやすさばかりでなく、大きな荷物の出し入れにも影響を与えることから、十分な配慮が必要です。

高低差がある場合は、緩やかなこう配の階段、スロープによる対応があります。

また、アプローチに溝ふたがある場合は、ベビーカーや車いすの車輪が落ち込まないように、細目のものを選びましょう。

参考図など



※緩やかなこう配のスロープとするために、場合によってはテラスなどにつながることも検討しましょう

●こう配と踊り場

■緩やかな階段やスロープの設置が困難な場合
 傾斜地に建つ住宅などで、緩やかな階段やスロープを設置することが難しい場合は、将来的に段差解消機や階段昇降機が必要になる可能性があります。
 昇降機を設置するスペースや電源の確保について、事前に検討しておくようにしましょう。



●昇降機の設置イメージ

2 玄関ポーチ

配慮したいこと

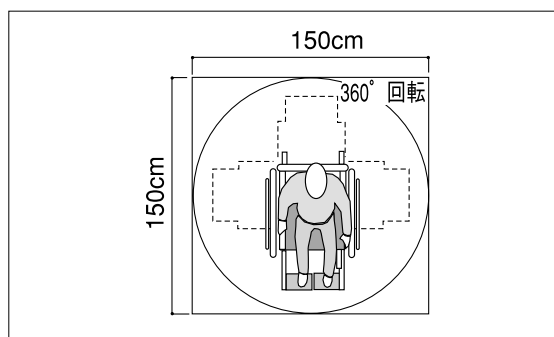


玄関ポーチ部分には、雨がつかからないように庇を設けます。

ベビーカーや車いすを使用する場合は、ポーチは、車いすに乗ったままでも向きを変えることができる程度の広さとするのが望まれます。

※近年では、6輪の車いすが開発され、比較的省スペースでも回転できるようになっています。

参考図など



●一般的な車いすの回転に必要なスペース

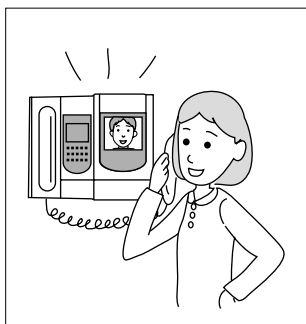
3 インターホン

配慮したいこと



来客時に玄関先、または門まで行かなくても、室内から来客を確認し対応できるよう、モニター付きインターホンを設けると便利です。

参考図など



●モニター付きインターホンのイメージ



●監視カメラのイメージ

4 街なみづくり、地域との交流

配慮したいこと



住まいの外まわりは、街なみを構成する大切な要素ですから、そのつくりにも気を配り、美しい街なみとなるよう配慮したいものです。

また、地域との交流は、安心して楽しく暮らしていくために欠かせないことです。気軽に交流できるよう、低い生垣にしたりするなどの配慮が必要です。

参考図など



●美しい街なみのイメージ